



▲第1回学長杯争奪カロム大会の様子と記念写真

昨年、9月20日に本学の学生ホールにおいて「第1回学長杯争奪カロム大会」が開催されました。「カロム」とは地元彦根市周辺で昔から楽しまれているボードゲームです。

大会はダブルスでの対戦形式で行われ、廣川学長を含む全10チーム20名が参加しました。決勝は「カロム日本選手権」で使用されている“黄金のカロム盤”を使用して行われ、チーム「かきもち」の谷垣さん・尾本さんペアが優勝しました。

優勝チームには、後援会が寄贈した優勝杯(学長杯)と賞状、副賞などが贈られました。今回は第1回ということで、参加者全員に大学理事や大学生協から提供された副賞や参加賞等が授与され、会場は大いに盛り上がりました。参加した学生からは、「楽しかった、来年も参加したい。」という感想が多く聞かれました。後援会でも、彦根のご当地ボードゲーム「カロム」の楽しさをもっと知ってもらうためにカロム台を2台購入し、学内で貸し出しを始めました。

▲引き継がれていく優勝カップ

今後も回を重ねるごとに参加者が増え、「学長杯」で県大が盛り上がっていくことを期待しています。

CONTENTS

県大ニュース

「第1回学長杯争奪カロム大会」 …… 1

課外活動レポート

「第23回湖風祭」 …… 2

「鳥人間コンテスト出場報告」、

「湖街ロックフェス2017」 …… 3

留学生交流助成事業

「留学生研修旅行」 …… 4

「人間学 異文化理解A」 …… 5

「国際環境マネジメントI、II」 …… 6

就職だより

就職支援、保護者向け就職説明会 …… 7

インターンシップ報告、

公務員試験対策講座のご案内 …… 8

就職内定者インタビュー …… 9

事務局からのお知らせ …… 10~12

第23回

湖風祭



昨年の11月11日(土)、12日(日)に第23回湖風祭が開催されました。11日はあいにくの雨となりましたが、12日は天気も回復し、無事に第23回湖風祭を締めくくることが出来ました。当日は、県大生はもちろん、お子さん連れのご家族や小中学生、お年寄りの方まで老若男女を問わずたくさんのお客様にお越しいただき、たくさん笑顔を見ることが出来ました。湖風祭というひとつの祭りを「みなさんと」一緒に楽しむ事ができ、本当に嬉しく思っています。

湖風祭は環境に配慮した大学祭を目指して活動しています。今回も割り箸ゴミの削減を目指した活動「はしレンタル」を行いました。結果として4173膳もの割り箸ゴミを削減することが出来ました。また、洗って再利用できるお皿やコップを模擬店で使用し、ゴミを減らすDRP (Dish Return Project) という活動では、5325枚のお皿のゴミを、そして720個のコップのゴミを削減することが出来ました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

湖風祭は私たち実行委員だけでは決して作り上げられません。今回の第23回湖風祭を無事に終えられたのも、県大の学生や地域の方々、会場にお越しくくださった皆様など、湖風祭に関わってくださったすべての方々のおかげです。これからも皆さんと一緒に楽しんで、良い思い出が作れる湖風祭を目指し、実行委員一同邁進してまいります。ぜひ、来年の第24回湖風祭にもお越しください！皆様のご来場を心よりお待ちしております。

私は、愛するこの滋賀県立大学の大学祭『湖風祭』にこのような形で関わられたことを誇りに思います。本当にありがとうございました。



滋賀県立大学湖風祭実行委員会
23代目実行委員長
村川 滉平



航空研究会UAfg 「第40回鳥人間コンテスト2017出場報告」



部員
絶賛
募集中!!

2017年度「第40回 鳥人間コンテスト」において航空研究会UAfgの代表を務めさせていただきました、江越啓太と申します。今回の出場にあたっては、学内外の多くの方にご協力、応援していただき、誠にありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

今年の鳥人間コンテストでは、結合翼機という珍しい機体形状で200m越えを目指して滑空機部門(動力を使わない部門)に出場しましたが、結果は11.57m。大会に向けては、1回生のころから準備をし、今年度は、代表、設計、パイロットを兼任して挑んだ大会であったため、この結果は受け入れがたいものでした。

ですが、結果を受け入れ、見つめ直すことで、新たな可能性を見出すことができました。

私自身は、今年度の反省から「来年度は結果を出せる」と自信を持つことができたため、代表は後輩に譲るもののチームに残るつもりです。

来年の鳥人間コンテストに向けてまだまだ頑張っていこうと思っていますので、これからも航空研究会UAfgをよろしく願っています。

航空研究会UAfg(ユーファ) 前代表
江越啓太



湖街Rock Fes'2017

例年開催されていましたが「荒神山ロックフェス」が一昨年を最後に姿を消し、今年度は新たに「湖街Rock Fes'2017」が昨年の9月9日(土)、10日(日)に滋賀県立大学センター広場にて開催されました。9日は、本学の音楽サークルが参加する前日祭が行われ、和気藹々とした雰囲気で行われていました。10日には、滋賀県内から集まった他大学音楽団体の学生も参加し、迫力のある演奏が披露されていました。このイベントは他大学との交流が大きなテーマとなっており、実行委員は本学の学生を中心に他大学のスタッフを加え運営されています。

両日とも、天候に恵まれ、滋賀県内の学生で会場は賑わっていました。





後援会では、留学生交流活動助成として様々な活動に助成をしています。
今年度、助成しました3事業をご紹介します。

「留学生研修旅行（バス旅行）」

■日 程：2017年10月7日（土）

■場 所：京都嵯峨嵐山 京都伝統産業ふれあい館
（友禅染体験）



外国人留学生が日本の文化等を知る機会として、毎年見学旅行を実施しています。

今年は、京都嵯峨嵐山と京都伝統産業ふれあい館を研修先とし、37名（外国人留学生29名、日本人学生8名）が参加しました。嵯峨嵐山では渡月橋から竹林、野々宮神社など、京都の自然の美しさや古い歴史を感じながら散策をしました。午後からは京都伝統産業ふれあい館に移動し、友禅染めの体験を行いました。各々自分の好きなデザインを選び、布製のトートバッグに染色しました。染料の分量調整が難しいようでしたがすぐに慣れ、個性豊かなバッグを作ることができ、学生たちは大満足な様子でした。

日本人学生も参加するこのイベントは、毎年日本人学生と留学生が交流を深める場としても大変良い機会となっています。

[国際化推進室]

参加留学生の感想



ちょうかきい
趙家馨
（中国）

今回のバス旅行をきっかけに、ついに京都の嵐山に行ってきました。まずは、バスに乗って、1時半ほどかかり、渡月橋に降り立っていました。煙のような霧雨が降るような、ゆったりと流れる桂川と、悠然とそびえる嵐山、そして広い空。すごく眺望がよくてテンションも上がって、感動しました。

先生に連れられて、竹林の中を散策しました。一歩足を踏み入ると、竹の爽やかな香りが出迎えてくれて、笹の葉がさらさら風に揺れる音を聞きながら歩いていると、とても落ち着いた気持ちになりました。緑が鮮やかで夏がまた戻って来たいです。その後は、嵐山の渡月橋の辺りまで歩いてお土産物屋さんなどを見て歩いたりして、昼食は湯豆腐のお店に行きました。美味しかったです。またその後は、伝統産業ふれあい館で、友禅染の体験をしました。布で作られたかばんの上に型紙を乗せて、刷毛を使って型紙の上から色を染めていきます。時間の経つのも忘れてしまいました。色の組み合わせによって全く違う感じになります。昨日まではみんなお互いに知らなかったのに、今はこうやってまるで、当たり前みたいに一緒に旅行して、なんだかとても不思議です。すてきな思い出をありがとうございました。



パク ジェソン
（韓国）

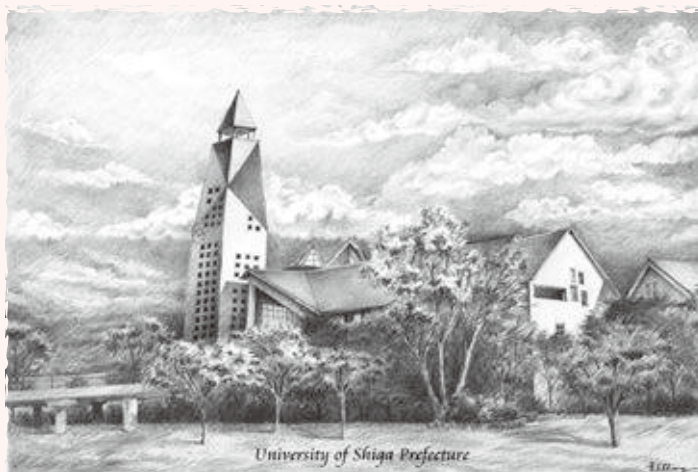
みんなと一緒にバスに乗って京都へ、京都には前に何回も行ったことがある。それで最初は「行かなくても良いんじゃないかな」と思ったけど、こうやって皆で一緒にどこかへ行くのがとても楽しかった。新しく来た留学生を含め、初めての人たちと出会って喋ったり、一緒に美味しい物を食べたりするのはいつでも楽しいことだ。それに初体験の友禅染では私だけのトートバッグもできて、決して忘れない記憶として残っている。今後もこのような機会がたくさんあって欲しい。



Pick up

県大 スケッチ

ベトナムからの留学生
フィン・バン・カンさんの
スケッチ作品を紹介します。



「人間学 異文化理解 A」

■日程：2017年8月24日（木）～9月17日（日）

■場所：アメリカ オレゴン州 ポートランド州立大学

夏季休業中の25日間、アメリカのオレゴン州ポートランド州立大学において、「人間学 異文化理解A」として短期研修を実施しました。この研修は午前の英語の講義と午後の選択科目（ボランティア、ポートランドポップカルチャー、ホスピタリティから一つ選択）を基本に、週末は周辺地域でのフィールドトリップで構成されています。現地での宿泊はホームステイとなり、現地の一般家庭に滞在し、英語によるコミュニケーション能力の向上はもちろん、アメリカの自然と文化に触れ、国際感覚を涵養し、異文化の理解に努めることを目的としています。帰国後は、現地の選択科目で扱ったテーマを基に、学修結果をまとめ発表する報告会を実施しています。 [国際化推進室]



参加学生の感想



環境科学部 1 回生
中井聖治

アメリカのポートランド州立大学へ短期留学。3週間という短い期間でしたが、様々な経験ができ最高に濃い時間を過ごすことができました。衣食住はもちろんのこと、物事の見え方、気持ちの表現の仕方など日本との違いを、たった3週間過ごしただけでも多くみることができました。ホストファミリーと過ごし、大好きなサッカーをプレーできる環境もあり、本当にたくさんの人たちとの出会いがあり、充実した3週間でした。



人間文化学部 1 回生
千田将吾

僕は今年の夏、アメリカのオレゴン州ポートランドでの PSU プログラムに参加しました。このプログラムには日本全国の様々な大学からおよそ 60 名が参加しました。PSU (Portland State University) では夏休みに複数のプログラムを企画している為、僕達の他にも多くの日本人がいました。僕達の参加したプログラムは中でも最も人数の多いものでした。このプログラムでの 1 番の思い出は、ホームステイです。僕はシングルマザーと 6 人の子どもがいる家にホームステイしました。授業の無い週末は一緒に卓球をしたり、教会に行ったり、ゲームをしたりしました。その中でも最も印象に残っているのは、誕生日パーティーです。プログラム参加中に僕の誕生日が来たため、ホストファミリーが誕生日パーティーを開いてくれました。ボウリング場に連れて行ってくれ、素晴らしい誕生日を過ごすことができました。このプログラムに参加したことで、アメリカの文化に触れることができ、英語の能力も伸ばすことができました。



工学部 2 回生
船井啓太

私の 1 番の思い出は生の英語、アメリカ人の考え方に触れたことです。アメリカで英語を使うとき、敬語というのがほとんどないことがとても印象的で、英語の方が色々な人に話しかけやすいと実感しました。それに、アメリカ人は行動も考え方も日本人とはかなりの違いがあり、その新鮮さこそが文化の違いなんだと感じられました。なによりも英語がより好きになれました。これが 1 番です！



私が描きました！

環境科学研究科環境計画学専攻
フィン・パン・カンさん

「国際環境マネジメントⅠ、Ⅱ」

- 日 程：2017年2月27日（月）～3月9日（木）
- 場 所：フィリピン・マニラ市 サント・トマス大学

国際環境マネジメントⅠ、Ⅱは、アジアの各国で、現地の学生とともに、環境問題や持続可能な発展について学ぶ全学共通の人間学科目です。

H28年度は、本学の協定校であるサント・トマス大学の協力のもと、フィリピン・マニラおよびその近郊にて2月27日～3月9日に実施しました。環境科学部から学生8名が参加し、火山湖として知られるタール湖沿岸でのフィールドワーク、マニラ市の廃棄物管理モデル地区見学、マニラ旧市街の歴史地区や、国際イネ研究所、Makiling 植物園、国立博物館訪問などを通じて、フィリピンを多角的に学び、体験するプログラムを実施しました。

H30年度からは、産業、健康分野にも対象とする領域を拡大し、科目の名称を「アジア・フィールド実習Ⅰ・Ⅱ」と変更して実施する予定です。

環境科学部生物資源管理学科 准教授 原田英美子



参加学生の感想

「現地ですごく得られたもの」 環境科学部 生物資源管理学科 久保直輝

日本にいますと、海外の国に対して持つイメージがリアリティのないものになることがよくある。同じアジアに位置するフィリピンですらその実態は掴みにくい。友達にフィリピンに対して抱くイメージについて尋ねると、こう返ってきた。「フィリピンはバナナの国だ。それから、少し治安が悪いらしい。」確かに、フィリピンはバナナの生産数が多いし、多少治安が悪かった。しかし、私がフィリピンに行って強く感じたのは、フィリピンという土地でしか感じ得ないものばかりだった。

フィリピンは暑かった。太陽は日本にいる時よりも大きく見え、2月でも半袖で過ごすことが出来た。その暑さゆえに南国ならではの生態系が成り立っていた。街中でマンゴーやヤシの木がわんさか生えており、森林に入れば色とりどりの鳥を観察することができた。

フィリピンの人たちはとにかく陽気で親切だった。もちろん、私が出逢ったのはサント・トマス大学の一部の人たちであったので、偏った人たちだけに対する感想かもしれない。しかし、特にサント・トマス大学の学生たちは会って間もない私たちに非常にフレンドリーで、タガログ語やフィリピンの習慣について教えてくれた。私の拙い英語にも真摯に耳を傾け、聴こうとしてくれた。コミュニケーションをとることにおいて、語彙や知識はもちろん大事なのだが、最も重要なことは積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢なのだと感じかされた。

私にとって今回の研修は実に有意義なものとなった。現地に行ってこそ、肌で触れてこそできる経験をたくさんできたと思う。



本コースのコンセプト、内容、過去のプログラムの様子は、滋賀県立大学のホームページおよび環境科学部年報等からもご覧いただけます。
 H28年度 実施報告（フィリピン・マニラ）滋賀県立大学ホームページ NEWS & TOPICS（2017年3月21日）http://www.usp.ac.jp/topics/shc_2017321/
 プログラム立案の経緯およびH26年度、H27年度のプログラムの参加学生レポート
 （環境科学部年報 19: 41-46、20: 124-129、21: 111-119、滋賀県立大後援会会報はっさか 42: 4）

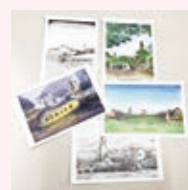
県大ポストカードのご紹介

滋賀県立大学留学生支援会では、県大のキャンパス画ポストカードを作成しました。イラストは本学ベトナム人留学生のフィン・バン・カンさんをお願いし、前ページ「県大スケッチ」で紹介されましたように県大キャンパス内の四季折々の風景を素敵に描いていただきました。

ポストカードはAタイプとBタイプがあり、どちらも5枚1セット300円（税込）です。収益金は留学生支援会への寄付として、本学留学生への様々な支援に活用させていただきます。ポストカードは滋賀県立大学生協にて販売しております。郵送をご希望の場合は、切手を貼った長型3号の返信用封筒（住所、氏名を記入のもの）と、ポストカード代分の定額小為替（郵便局で購入）を同封のうえ、購入希望タイプと数をメモなどに記載して右記まで郵送してください。（参考：2セットまで切手代は92円です。）



◀ Aタイプ



◀ Bタイプ

（問合せ先）

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500
 滋賀県立大学国際化推進室
 TEL: 0749-28-8504 FAX: 0749-28-8267
 Email: iec-staff@office.usp.ac.jp

就職担当から保護者の皆様へ

平成30年度卒業・修了予定者(現3回生・M1生)の就職活動スケジュールについては、現行と同じスケジュール(広報活動:3月1日以降、採用選考活動:6月1日以降、正式な内定日:10月1日以降)を維持することが一般社団法人日本経済団体連合会から既に発表されており、現3回生・M1生の就職活動も3月からいよいよ本番に突入します。エントリーから選考開始までの期間が短いため、2月末までに自己分析や筆記試験対策を終えておくことはもちろんのこと、エントリーしたい企業を事前にチェックしておくことが重要となります。

本学においては、去る1月16日から18日までの3日間、キャリア教育の一環として、県内外の優良企業84社が参加する「学内業界研究会」を開催しました。さらに、来る3月5日から8日までの4日間、3回生およびM1生を対象とし、同様に県内外の優良企業112社が参加する「学内企業研究会」を開催します。こちらは広報活動解禁後ですので、企業の人事担当者から採用に関する情報を直接聞くことができます。

就職活動中のお子様は、緊張とプレッシャーの連続で休む暇もありません。そのようなお子様を見ていると心配になり、親として何かと発言したくなるものですが、就職先の決定にあたってはお子様の意思を尊重していただきたいと思います。保護者の皆様の考えや意見を押し付けて内定を辞退したりすることのないよう、お子様自身の考えで就職先を選べるよう導いてあげてください。また、リクルートスーツの購入や交通費等、就職活動にはお金がかかりますので、必要に応じて経済的なサポートをお願いします。就職活動がうまくいかず落ち込んでしまった時こそ、保護者の皆様がお子様と共に考え、励まし、心の支えとなっただき、リラックス・リフレッシュできる環境を作っていただきたいと思います。

[学生支援センター 就職担当]

保護者向け就職説明会を開催しました

去る10月21日(土)に本学交流センターにおいて、保護者を対象とした就職説明会を開催しました。本説明会は、最近の就職活動がエントリーシートや就職情報サイトの活用などにより、保護者世代の就職活動とは様変わりしてきている中で、学生の就職活動に対する保護者の理解と協力を得ることを目的に開催したもので、187名の保護者の方々にご参加いただきました。

本学の就職支援の状況についての説明に続き、本学の就活セミナーの講師をお願いしている一般社団法人キャリアラボ代表理事の松田剛典さんから「最新の就職状況と家庭で出来る支援の形」と題し講演をしていただきました。

その後の座談会では、就職活動を終えたばかりの内定者(現4回生4名)が登壇。「就職活動を振り返って」というテーマに基づき、松田さんの司会進行のもと、就職活動の進め方や、保護者のサポートの重要性など、実体験をふまえた生の声を聞かせてくれました。

引き続き学科別の個別相談会を開催し、9学科19名の保護者の方が学科教員と個別に相談されました。



▲職員による
就職支援状況の説明



▲熱心に聞き入る保護者の皆さん



▲講師の松田剛典さん



▲座談会に参加した4回生の皆さん

インターンシップ報告2017

将来を見据え自己を鍛える ～意義ある就業体験～

主に学部3回生と修士1回生を対象として、夏季休業中にインターンシップを実施しました。これは、就職活動を控えた学生が、職業観や勤労観を育成し、就労への意欲を高めるとともに自己の適性についての認識をさらに深めることを目的としています。

本学と企業・団体等と覚書を締結して行う「協定型インターンシップ」には、85名が参加しました。また、今年度より本学と県内5大学、滋賀県、滋賀県産業界等との協働のもと滋賀県内就職率向上と雇用創出に取組む教育プログラム改革を進めるCOC+事業による「中期インターンシップ」(15日間以上)も開始しました。これには11名が参加し、今年度は合計96名の学生が就業体験を実施しました。

実習期間は多くの学生が1週間ないし2週間でしたが、17日間の長期にわたって体験実習をした学生もいました。体験先は、県や市をはじめとする官公庁や金融業、製造業、卸小売業そしてサービス業と多岐に渡っています。

参加者は、4月のガイダンス、7月のマナー講座、直前研修を経て自治体や企業等で実習を行いました。また、事前レポート、実習日誌、事後レポート(報告書)の提出が課せられています。

10月にはインターンシップを振り返る報告会を学内で実施しました。ここでは、学生が班別に実習内容やインターンシップから学んだこと、「働く」こと等についてディスカッションを行いました。学生からは、「仕事に対する責任の重さを感じた」「コミュニケーション能力を高めることの必要性を感じた」「ご指導いただいた方から有益な話を聞くことができた」等の感想が聞かれました。

[学生支援センター インターンシップ担当]



マナー講座(電話応対)



実習の様 指導者による講義



実習の様 ものづくり実習



インターンシップ報告会

公務員試験対策講座

本学では、毎年5月から翌3月まで主に3回生を対象に公務員試験対策のプロによる「公務員試験対策講座」を3コース開講しています。それぞれ有料ですが、受講者には後援会から助成金が交付されます。

行政職コース(全226回)	一般教養コース(全88回)	1・2回生コース(全182回)
[対象] 国家一般職・地方上級・国税専門官・市役所等の行政系職種を目指す方に。	[対象] 福祉職・技術職・市役所(一般教養試験のみ)・警察官・消防官を目指す方に。	[対象] 在学中に必ず公務員試験に合格したい方に。早い段階からの学習により、余裕をもって本番に臨めます。
[内容] 公務員試験に必須の主要5科目の集中的なライブ講義とゼミの開講	[内容] 全ての公務員試験で重要な数的処理を中心とする集中的なライブ講義	[内容] 3回生行政コースとほぼ同じ内容。(一部教養科目、面接対策等除く)
[受講料] ¥80,000 (税・教材費込)	[受講料] ¥22,500 (税・教材費込)	[受講料] ¥61,000 (税・教材費込)
[助成金] ¥10,000	[助成金] ¥3,000	[助成金] ¥8,000

※どのコースもまず受講料全額をお支払いの後、後援会に申請し助成金を受け取ります。
(後援会費が未納の方は助成対象となりません。)

※コース内容および受講料、助成金額は平成29年度の情報です。平成30年度は変更になる可能性があります。

★本学の公務員試験合格者は増加傾向にあります。現状では、合格者が44名おり(11月24日現在)、内16名が行政・事務系職、28名が農業等の技術職や公安職です。

公務員試験合格者の約半数である20名が講座受講生です。しかも、約1年間もある講座を最後まで受講し続けた学生が合格を勝ち取っています。毎年、4月20日頃に講座の説明会を行っております。お子様が公務員を目指しておられましたら、参加を勧めてください。

[学生支援センター 就職担当]

「就職活動成功体験インタビュー」～学生からのメッセージ～

就職内定を勝ち取った4回生の皆さんの中から4名の方にお話を伺いました。

氏名
山田 真寛
学部・学科
環境科学部 生物資源管理学科
内定先
滋賀県（農業職）



志望業界	農業
説明会参加数	2社
エントリーシート提出数	1社
先輩訪問	0人
面接数	1社
内定数	1社

- 就職活動で内定を勝ち取るために何が一番大切だと思いますか？
「なぜここで働きたいのか」を明確にすることが大事だと思います。ここで働きたいと思う理由を明確にすることで、そこで働く自分の姿を鮮明に想像することができるようになります。結果として、モチベーションを高く維持することができます。本命の内定を勝ち取ることに繋がっていくと思います。
- 先輩の皆さんへ就活のアドバイスをお願いします。
就職活動には不安はつきものです。だからと言って、1人で不安を抱え込まないでください。あなたの周囲には相談に乗ってくれる先生方や両親、友達が必ずいます。その人達に相談することで、不安は頑張る力に変わります。不安を乗り越え、自分の信じた進路に向かって頑張ってください。
- 家族へのメッセージをお願いします。
就職活動の相談を親身になって聞いてくれてありがとう。「頑張っているなら、私達は全力でサポートするから、何でも言ってね」とたった一言で安心することができ、就職活動を最後まで頑張ることができました。これからは公務員として頑張っていくので、応援よろしくをお願いします。

氏名
水野 佑哉
学部・学科
工学部 電子システム工学科
内定先
(株)関電エネルギーソリューション



志望業界	電気系
説明会参加数	25社
エントリーシート提出数	6社
先輩訪問	2人
面接数	6社
内定数	2社

- 就職活動で内定を勝ち取るために何が一番大切だと思いますか？
多くの情報を得ることが大切だと思います。面接では自分の意見や考えを述べる質問があります。その時にインターンや会社説明会に参加して学んだ知識や直接、話を伺った経験は非常に有益でした。自分が考える最適な意見を述べるために、知見を広げることが大切だと思います。
- 先輩の皆さんへ就活のアドバイスをお願いします。
就職活動は自分を見つめ直す、いい機会でした。自分の将来像、就きたい仕事、職種、叶えたい夢などを何度も何度も自問自答して、自分の軸を確立してください。友達、先輩、教職員、親、色々な方の話を聞くこと、相談することはとてもいい刺激になりました。
- 家族へのメッセージをお願いします。
私は下宿生で親元から離れています。それでも、気軽に家族と話す時間を作ってくれたことや、就職活動のスケジュールで突然、実家に帰っても翌日の面接のために洗濯、アイロンをして、いつものように送り出してくれるといったことが非常に嬉しかったです。感謝しています。

氏名
岡村 一樹
学部・学科
人間文化学部 地域文化学科
内定先
村田機械株式会社



志望業界	機械、食品、IT、人材派遣、物流
説明会参加数	30社
エントリーシート提出数	40社
先輩訪問	0人
面接数	12社
内定数	5社

- 就職活動で内定を勝ち取るために何が一番大切だと思いますか？
自分自身をよく知り、うまく表現して伝えられるようにすることだと思います。知らない相手に会社への熱意を語るよりも、まず自分がどんな人間なのかをしっかりと説明することの方が大事だと思います。その上で、自分の強みと会社の強みを照らし合わせる方が効果的です。
- 先輩の皆さんへ就活のアドバイスをお願いします。
1人で考え込まず、些細なことでも自分の考えを、知識豊富な先生や就活を経験した先輩などに話してください。初めての就活で分からないこと、不安なことがあるのは当然です。そのためにいてくださる存在です。まずは、自分の考えをアウトプットすることから始めましょう。
- 家族へのメッセージをお願いします。
就職活動中を含め毎日支えてくれてありがとう。多少おせっかいなところはあるけど、毎日当たり前のように同じ時間に起きて、お弁当を作ってくれてすごく嬉しかったです。些細な場面で非常に助けられました。これからも迷惑をかけるとは思いますが、よろしくをお願いします。

氏名
田中 里美
学部・学科
人間看護学部 人間看護学科
内定先
滋賀県教育委員会



志望業界	教員
説明会参加数	1社
エントリーシート提出数	1社
先輩訪問	0人
面接数	1社
内定数	1社

- 就職活動で内定を勝ち取るために何が一番大切だと思いますか？
入念な準備です。滋賀県の教員採用試験の一次試験は、一般教養(5教科)、教職教養、専門教養、小論文などかなりの範囲から出題されます。教員になりたいと少しでも思われる方は、思い立ったその日から少しでもいいので勉強されておかれるとよいかと思います。
- 先輩の皆さんへ就活のアドバイスをお願いします。
接客業のような人と関わるアルバイトをすることをお勧めします。教員のような公務員だけでなく、一般の企業の採用試験でも必ずと言っていいほど面接があります。接客業で自然と身につく、初対面の人と円滑に会話できる力は、面接において必ず生きてきますよ。
- 家族へのメッセージをお願いします。
遠い彦根まで送り迎えしてくれてありがとう。実習とか、しんどい日にはLINEを見るだけで涙が出るくらい安心できる大きな存在でした。照れくさくて言葉には出さないけれど、いつもいつも感謝しています。これからは、いち社会人として立派に働いていきます。

施設整備等助成事業

後援会では課外活動団体の要望に応じ、毎年施設整備等助成費で様々な助成をしています。今年度助成しました主な事業をご紹介します。

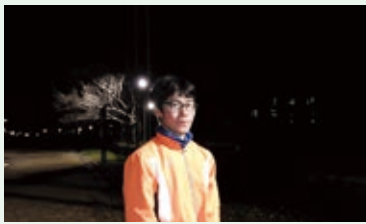
●スロープ下外灯の設置

県大のシンボルである“えんぴつ塔”に通じる大きな坂の下に、湖風祭で使用するテントや備品の入った倉庫があります。倉庫前には外灯がなく、学生がイベントの準備のために夕方から夜にかけて作業を行う際、手元が暗く危険な面がありました。湖風祭実行委員会からの学生懇談会での要望を受け、昨年湖風祭の前に夜間に自動点灯する外灯を設置しました。



●陸上競技場の外灯&時計の新設

陸上競技場には照明設備がなく、学生懇談会では以前から照明の設置要望が挙がっていました。しかし、本格的な照明設備は設置費用が高額であり、また近隣農地の関係から難しく、学生たちは日没と共に練習ができなくなる状態でした。“本格的な競技は難しくても何らかの照明をつけることはできないか”大学の施設担当と後援会、学生担当が協議をし、後援会の施設整備等助成事業として陸上競技場の一部に、高照度のLED外灯を2本設置することができました。また、学生要望にありました陸上競技場から見える時計をその外灯の支柱に設置しました。



照明の下で自主練習をされていた 陸上競技部の小崎和樹さん

「今までは真っ暗な中で走っていて、人にぶつかるなどの危険がありました。これからはマネージャーにタイムを測定してもらうこともできます。日没後も安心して練習できるので、今まで以上に頑張っていきます。ありがとうございました。」

リサイクル市開催のお知らせ

環境系サークル「LEAFS(リーフス)」による、リサイクル市が開催されます。



日時 3月25日(日)12時20分より
場所 滋賀県立大学 交流センター
取扱品 家具：カラーボックス・机・イス・ベッド等
 家電：冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ・
 照明・トースター・炊飯器等
 その他：自転車、食器、雑貨など

卒業する学生の下宿等で不要になった生活用品を中心に安価にて販売します。
 詳しくはLEAFSのホームページをご覧ください。



リーフス リサイクル市

検索

「大会出場激励金授与式」

後援会では、予選を通過して関西や全国規模の大会に出場する学生に大会出場激励金を授与しています。今年度は、12月までに7団体28名が倉茂理事より激励金を授与されました。

囲碁

「第59回
全日本女流アマチュア
囲碁選手権大会」出場
八木菜月さん



航空研究会UAfg

「第40回鳥人間コンテスト2017」出場



ウインドサーフィン部

「第35回伊勢湾カップ2017」出場

宮澤証太さん、不破有理子さん、齋藤優花里さん、
高橋綾さん、花田夕貴さん、土屋明穂さん、伊藤大智さん、
平野健太さん、福永康倅さん、川島幹也さん

「2017年度全日本学生

ボードセーリング選手権(インカレ)」出場

宮澤証太さん、不破有理子さん、齋藤優花里さん、
土屋明穂さん、高橋綾さん、花田夕貴さん、
福永康倅さん、川島幹也さん



吹奏楽部

「第67回
関西吹奏楽コンクール」出場



陸上競技部

「第85回近畿陸上競技選手権大会」

- 男子円盤投出場 嶋岡慧太さん、岩口雄輝さん
- 男子ハンマー投出場 神谷一貴さん
- 女子400mハードル出場 藤林悠希さん
- 女子4×400mリレー出場
藤林悠希さん、平井真穂さん、松岡可純さん、西田朱里さん



キンボールサークル桃球

「第18回キンボールスポーツ
ジャパンオープン・フレンドリーカップ
チャンピオンの部(混合)」準優勝
西岡克典さん、飯田典子さん、齋藤隆博さん、馬場麻梨乃さん



水泳部

「第64回全国国公立大学選手権
水泳競技大会」出場
●100m背泳ぎ、50m自由形出場
岩井柊太さん



事務局からのお知らせ

「はっさか 46号に寄せて」
3月に退任される役員各位からのメッセージを掲載します。

早いもので、娘の入学と共に後援会の理事に就いたのが4年前。皆様からの会費でどれだけ有意義に学生の成長の為に支援が出来るかと考えてきましたが、もっと何かしてあげられたのでは?と思ひ残すこともあります。しかし、学生懇談会や湖風祭等で学生の皆さんと実際に接してみれば、私達の支援とは関係なく学生たちの成長は著しく、それを感じることで出来る機会を頂いた楽しい4年間でした。本当にありがとうございました。皆さんの益々の活躍を期待しています。



澤田 藤茂英

後援会の理事会に、毎回出席させていただく中、大学の現状を知る機会に恵まれたことはとても有益でした。学生懇談会では、主に部活動や湖風祭に向けての学生の皆さんの思いを聞かせていただきながらより良い支援の方向性について論議することができたのも良い思い出で、大学の教育方針と学生のみなさんの真摯な姿は頼もしく思えました。「キャンパスはびわ湖。テキストは人間。」…地域に開かれた滋賀県立大学で私も息子も多くのことを学んだ4年間だったと思います。大学のますますの発展をお祈りいたしております。

宮崎 充司

娘の大学入学を機に後援会理事のお話を頂き4年間お世話になりました。湖風祭実行委員会や部活サークルの活動を身近に見る事ができました。また、学生さんたちとの懇談会では、若いエネルギーを感じ充実された学生生活を送ってられる事に感心いたしました。



丸山 泰央

娘とともに貴重な経験をさせて頂く事ができ感謝しております。4年間有り難うございました。今後も、県立大学と後援会のますますの発展をお祈りいたします。

息子が県大を卒業し、続いて娘が入学することになり、同時に後援会理事のお話を頂き、微力ではありますが大学のお手伝いできればとお引き受けいたしました。息子の在学時は分からないことばかりでしたが、理事をお受けしたことで大学の様子を知ることができ、4年間貴重な経験をさせていただいたことで、大学を身近に感じる事ができました。



村井 信幸

学生の皆さんが有意義な学生生活を送れるよう後援会活動の更なる充実を期待し、県立大学の益々の発展をお祈りいたします。

春の学校行事のご案内

■2018年度 学位記授与式

日時:2018年3月21日(水・祝)

- 第1部 大学院学位記授与式
午前9時~9時35分
 - 第2部 学部学位記授与式
午前10時45分~(11時30分)
※学生表彰など
(11時30分)~11時50分
- 場所:滋賀県立大学
交流センターホール

■2018年度 入学式

日時:2018年4月5日(木)

午前10時開式
場所:ひこね市文化プラザ

■2018年度 後援会総会

日時:2018年4月5日(木)

午前11時15分開会
※入学式後、同会場にて開催予定



後援会ホームページリニューアル準備中

現在、後援会のホームページをリニューアル準備中です。さらに見やすく、タイムリーなお知らせや大学の様子を伝えるブログなどを随時更新していきます。後援会の事業内容や会報「はっさか」のバックナンバー等もご覧いただけます。4月にはリニューアル予定ですので、新しくなったホームページへ是非、アクセスしてください。

滋賀県立大学後援会

<http://www.usp-koenkai.jp>